

平成30年度地方創生交付金関係(加速化交付金) 検証結果

H30.6.21開催

28繰地方創生加速化交付金

①事業名	②事業期間	③事業の概要	④事業KPI	⑤所管課	⑥事業実績の概要	⑦実績KPI	実績値を踏まえた今後について(所管課)		検証結果
							⑧所管課における検証結果	⑨今後の方針	
日本一ブランド戦略プロジェクト	H28.3 ～ H29.3	<p>■全国レベルの農産物に竹田ならではの付加価値を付ける「プレミアムブランディング」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本一のサフラン希少価値向上プロジェクト ・たけたゴールデンかぼすプロジェクト ・日本のパイオニア竹田しいたけプロジェクト ・日本一ブランド化&流通戦略会議 <p>■地元の産品の知識を高め、生産者が自信を持って売れる「知産知消」の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹田食育“地域の宝”プロジェクト ・「夢を育む・農村のまち竹田市」としての情報発信による消費者へのアプローチ <p>・国25,000千円 市2,116千円 計27,116千円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培戸数の増3戸増 ・知産知消マイスターの人材育成5人 ・新商品、新食品の開発件数2件 ・専用HPの立上げ1本 	農政課 保険健康課	<p>■竹田食育“地域の宝”プロジェクト 5,526,220円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食ラポ」としての「たけたの食べ方編集室」を立ち上げ、知産知消や食育を地域で進める5名のマイスターを育成。 ・日本一食材をはじめとする5つの食材の健康効果の検証をおこなうことでその可能性を見出し、それらの食材を活用したレシピ開発と普及のための料理教室の開催と3つの商品開発。 ・郷土料理をはじめとする“地域の宝”を継承するための食育映画上映会およびイベントによる継承のための啓発と冊子の作成。 ・事業の進捗を含めて食育の啓発のためのホームページ作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新規就農者 11名(H28) 3名(H29) ○マイスター人材育成 5名(H28) 5名(H29) ○新商品開発 4品(H28) ○HP立上げ 2件(H28) 	<p>全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られた。しかしながら、一朝一夕で成果が出てくるものではなく、加速化交付金による喫緊課題対策だけでは不十分と考える。数年を通じて成果を育んでいく必要がある、推進交付金により継続的かつ深掘りしながら支援することで、より成果を实らせることが可能と考える。更には2020年の東京オリンピックを首都圏における最終的な絶好のブランド確立機会を捉え、加速化交付金で得られた成果と課題を推進交付金で補い継続的に推進していく。</p>	<p>①事業の継続(地方創生推進交付金活用)</p>	<p>継続的かつ深掘りしながら支援することで、より成果を实らせることが可能と考える。</p>

平成30年度地方創生交付金関係(加速化交付金) 検証結果

H30.6.21開催

28繰地方創生加速化交付金

①事業名	②事業期間	③事業の概要	④事業KPI	⑤所管課	⑥事業実績の概要	⑦実績KPI	実績値を踏まえた今後について(所管課)		検証結果
							⑧所管課における検証結果	⑨今後の方針	
“人間磁場”が渦巻く「竹田クリエイティブ・シティー」構想の実践	H28.3 ～ H29.3	<p>■「メディカル・ファッション」学院構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビデンス調査 <p>■竹田草木染め学院構想 紺屋の里Project.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染め製品の開発、販売 <p>■竹田市TAO芸術村&和太鼓学院構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国40,000千円 市3,781千円 計43,781千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・移住人口の増 10名 ・雇用の創出 3名 ・観光入込客数の増 ・新商品の開発及び地域プログラムの創出 件数 5件 	企画情報課	<p>何れの学院についても環境整備を行ったのみ。</p> <p>■「メディカル・ファッション」学院構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム作成、写真集の発刊、ファッションショー開催、施設整備 等 <p>9,131千円</p> <p>■竹田草木染め学院構想 紺屋の里Project.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想策定、環境整備、染め製品の開発 等 <p>6,286千円</p> <p>■竹田市TAO芸術村&和太鼓学院構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム作成、構想策定 等 <p>10,800千円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・移住人口の増 35名(H28) 36名(H29) ・雇用の創出 0名(H28) 3名(H29) ・観光入込客数 270万人(H28) 281万人(H29) ・新商品の開発及び地域プログラムの創出件数 5件(H28) 	<p>他の地域にはないであろう、竹田市固有のマンパワーを活用した3学院における移住の増と雇用創出が主の目的であり、竹田市の魅力UPによる観光客増も期待できる。</p> <p>但し、「メディカル・ファッション」学院構想については、H29エンジン01「ばりば in OITA」の対応等により、又、TAO芸術村&和太鼓学院構想も候補地における規制解除手続きに時間を要しており何れも開校できていない。草木染め学院については竹田市の施設を活用して学院の場所とし定期的な染め塾の開催を行っている。</p>	<p>①事業の継続</p> <p>②事業内容の見直し</p> <p>③その他</p> <p>※何れかにかを選択し右記欄に理由を記載</p>	<p>「メディカル・ファッション」学院構想については、H28.1進出協定を締結した指導者の意向を再確認し今後のスケジュールを検討。TAO芸術村&和太鼓学院構想については規制解除手続き時間を要しているようだが、東京オリンピック・パラリンピックまでの開校を目指し努力してほしい。</p>

平成30年度地方創生交付金関係(加速化交付金) 検証結果

H30.6.21開催

28繰地方創生加速化交付金

①事業名	②事業期間	③事業の概要	④事業KPI	⑤所管課	⑥事業実績の概要	⑦実績KPI	実績値を踏まえた今後について(所管課)		検証結果
							⑧所管課における検証結果	⑨今後の方針	
地域就農システム確立事業	H28.3 ～ H29.3	<p>■「新たな担い手への優良農地の提供」、「空き家バンク情報などと連携」し、担い手の確保から、育成、農地確保、就農、居住までワンストップで対応する地域就農システムを確立</p> <p>・国10,000千円 市244千円 計10,224千円</p>	<p>・就農学校及びファーマーズスクールからの就農者数 5名</p>	農林整備課	<p>■地域就農システムの構築</p> <p>委託料 7,532千円 人件費 244千円</p>	就農者 5名	<p>・就農学校卒業生等に計画的に優良な農地を提供するための大規模な農業団地造成に向け、収集した情報を活用して、新規就農者や企業参入用の農地や作物を考慮したゾーニングを踏まえた農地再編整備構想の策定が出来た。また、優良農地の提供、担い手の確保、育成、空き家バンク情報等が連携し、情報提供できる体制が整った。それにより竹田市新規就農ワンストップ窓口のマニュアル化が出来た。</p>	<p>①事業の継続</p> <p>②事業内容の見直し</p> <p>③その他</p>	<p>・検証結果に記載した様に再編整備構想の策定、新規就農者ワンストップ窓口の確立等達成できたと思われ、それに伴い関係機関の役割が明確化できた。今後は、それを更に熟成し、利活用していく事に重点を置く事が重要である。</p>
ものづくり産業地域連携推進事業	H28.3 ～ H29.3	<p>■生産性及び付加価値の向上、国内外販路開拓〈負担割合・補助上限〉</p> <p>・県1/4・5,000千円、市町村1/4・5,000千円、事業者等1/2、補助対象経費上限20,000千円</p>	<p>中小製造業の製造品出荷額 工業:10.4% 食品:5.5% (伸率)</p>	企画情報課	<p>Win With family(株) 加工食品の販売を実施するための施設整備 3,091千円</p>	統計数値未確定	<p>事業KPIの実績は確認できていないが、個別企業として売上や雇用に大きく貢献している。</p> <p>■売上 H29 3,540万円 ■雇用 新規5名</p>	<p>①事業の継続</p> <p>②事業内容の見直し</p> <p>③その他</p>	<p>事業は終了。継続して売り上げ目標等調査を行い、必要な対応をとること。</p>

平成30年度地方創生交付金関係(推進交付金)検証結果

H30.6.21開催

28・29地方創生推進交付金

①事業名	②事業期間	③事業の概要	④事業KPI	⑤所管課	⑥事業実績の概要	⑦実績KPI	実績値を踏まえた今後について(所管課)		検証結果
							⑧所管課における検証結果	⑨今後の方針	
世界に冠たる温泉資源を活用した健康療養地形成事業	H28.10 ～ H31.3	<p>■健康寿命の延伸と医療費の削減のための予防医療・健康づくりの人材・組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな職業の創出、雇用の促進 <p>■温泉の入浴・飲泉による医科学的調査によるエビデンスの蓄積と利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費の削減、観光客数の増 <p>■予防医療の仕組み・中長期滞在型のプログラムの整備と情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客数の増 <p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国12,530千円 市12,530千円 計25,060千円 <p>【平成29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国9,462千円 市9,462千円 計18,924千円 	<p>・観光消費額の増 (H27 13,153百万円)</p> <p>(H28 9,051百万円) 前年比▲3,879百万円</p> <p>(H29 11,464百万円) 前年比+2,412百万円</p> <p>・観光客数の増 (H27、330万人) (H28、234万人) 前年比▲99万人</p> <p>(H29、295万人) 前年比+626万人</p> <p>・温泉利用型健康増進施設における有資格者の配置及び人材育成実績数 (H28、20名) (H29、22名)</p>	商工観光課 保険健康課	<p>【H28年度実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉入浴指導員養成講座実施 21名 ・温泉利用指導者養成講習会受講 2名資格取得 ・竹田市総合インストラクター養成講座実施 20名資格取得 ・温泉の入浴、飲泉による医療学的調査 (温泉入浴分)5,404,800円 (飲泉分)4,320,000円 ・情報発信プロモーション事業 2件、4,963,900円 <p>【平成29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉入浴指導員養成講座実施 12名 ・温泉利用指導者養成講習会受講 1名資格取得 ・竹田市総合インストラクター養成講座実施 16名資格取得 ・温泉の入浴、飲泉による医療学的調査 (温泉入浴分)3,996,000円 ・情報発信プロモーション事業 3件、4,998,000円 	<p>・観光消費額の増 (H27 13,153百万円)</p> <p>(H28 10,668百万円) 前年比▲2,485百万円</p> <p>(H29 10,993百万円) 前年比+325百万円</p> <p>・観光客数の増 (H27、330万人) (H28、270万人) 前年比▲60万人</p> <p>(H29、281万人) 前年比+11万人</p> <p>・温泉利用型健康増進施設における有資格者の配置及び人材育成実績数 H28、34名 H29、18名</p>	九州北部豪雨災害、台風災害等による公共交通不通や観光客総数の減少	<p>①事業の継続</p> <p>②事業内容の見直し</p> <p>③その他</p>	健康増進プログラムの開発、商品販売、人材活用を具体的にスキームを構築し、プログラムを提供し、新規顧客の獲得を図るよう努めてほしい。

平成30年度地方創生交付金関係(推進交付金)検証結果

H30.6.21開催

28・29地方創生推進交付金

①事業名	②事業期間	③事業の概要	④事業KPI	⑤所管課	⑥事業実績の概要	⑦実績KPI	実績値を踏まえた今後について(所管課)		検証結果
							⑧所管課における検証結果	⑨今後の方針	
竹田アグリツアービュークリエーション事業・九州竹田産ホップ栽培への挑戦	H28.10 ～ H31.3	九州で栽培事例の無いビールの原料であるホップ栽培に挑戦し、景観形成の導入及び主産業である観光と農業の波及効果を狙い、大手企業との協調による農業地帯である竹田市のPR及び地域活性化に取り組む。	・竹田に興味を持った人の数 ・空き家バンクへの登録者数 ・誘致企業数	農政課	◇平成28年度 【事業内容】 ・九州竹田市産ホップ研究会の発足 ・実証圃場栽培棚設置(萩・久住・直入 3ヶ所) 【経費内訳】 ・講師報酬 ・圃場管理費(肥料等含む) ・圃場資材、施行費 国3,558千円 市3,559千円 計7,117千円 ◇平成29年度 【事業内容】 ・ホップ定植 ・栽培実証開始(作業、調査、研究) ・情報発信 【経費内訳】 ・栽培研修費 ・圃場管理費 国622千円 市645千円 計1,267千円	◇市HPアクセス数 501,761件(H28) 511,924件(H29) ◇空き家バンクへの登録者数 119人(H28) 118人(H29) ◇誘致企業数 0件(H28.29)	一部のKPIが目標に達しなかったものの、大手企業との協調による竹田市のPR及び地域活性化は、徐々にではあるが得られている。事業最終年度の30年度は、商品開発等行う中、引き続きその過程を全国に情報発信(話題性)し竹田市のブランドイメージ構築を図っていく。	①事業の継続 ②事業内容の見直し ③その他	概ね順調にホップ栽培は進んでいると思われる。将来的に竹田市の産業として自立・定着していけるかという疑問も感じられるため、検証をより加速させていく必要がある。 また、情報発信(話題性)を行うことで、更なる竹田市ブランドの構築を図ってほしい。

平成30年度地方創生交付金関係(推進交付金)検証結果

H30.6.21開催

29地方創生推進交付金

①事業名	②事業期間	③事業の概要	④事業KPI	⑤所管課	⑥事業実績の概要	⑦実績KPI	実績値を踏まえた今後について(所管課)		検証結果
							⑧所管課における検証結果	⑨今後の方針	
日本ブランド戦略深化プロジェクト「農・食連携から知産知消へ」	H29.4 ～ H32.3	<p>竹田市では栽培者の規模拡大、生産性向上、担い手の支援等を政策の中心として取組を行っているが、日本一を目指す竹田市の農業として</p> <p>①全国レベルの農産物(カボス・サフラン・しいたけなど)に竹田市ならではの付加価値を付ける「プレミアムブランディング」の推進</p> <p>②地元産品の知識・効能を高め、生産者が自信を持って作ったものを遠くの知人が消費してくれる「知産知消」の取組</p> <p>③これらを情報発信し、夢を育むことができる農村・農業の竹田市を広く知ってもらうこと(新しい人の流れに寄与)により消費者アプローチを積極的に展開し、日本ブランドの確立を目指し、安定的な収入の確保及び、新規栽培者の確保を図っていく。</p> <p>・国 3,750千円 ・市 3,853千円 計 7,603千円</p>	<p>①特産品を生産する新規就農者数の6名増</p> <p>②新商品・新食品開発件数3件</p> <p>③知産知消マイスターの認定者数5名</p>	<p>農政課及び保険健康課</p>	<p>サフランの健康効果検証を進める中、レシピの普及や料理教室の開催や、郷土料理をはじめとする“地域の宝”を継承するための研修会等の開催、HPを活用した食育に関する情報発信や啓発を行うほか、かぼす・しいたけの収穫体験ツアーの開催や首都圏等でのPRイベントを開催し、消費者・販売者へ直接的にアプローチ・販売を行った。</p> <p>【主な事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たけたゴールデンカボスプロジェクト ・日本のパイオニア竹田しいたけプロジェクト ・竹田食育“地域の宝”プロジェクト ・日本一のサフラン希少価値向上プロジェクト ・「銀座のかぼす」収穫祭 	<p>①特産品を生産する新規就農者3名</p> <p>②新商品・新食品開発0件</p> <p>③知産知消マイスター5名認定</p>	<p>加速化交付金からの継続事業として、初年度のKPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始から取組が前進・改善している。このことにより、竹田市の産品を全国にアプローチすることでき、地域活性に寄与していると考え。引き続き、PDCAサイクルに沿った検証を行いながら、事業を推進していく。</p>	<p>①事業の継続</p> <p>②事業内容の見直し</p> <p>③その他</p>	<p>【竹田食育”地域の宝”プロジェクト】</p> <p>医療機関等の専門機関との協議により、農産物(サフラン)の健康効果の研究の深化が必要。また、健康効果が認知されれば、新規栽培者の確保、新商品の開発を加速させることに期待できる。</p>

平成30年度地方創生交付金関係(推進交付金)検証結果

H30.6.21開催

29地方創生推進交付金

①事業名	②事業期間	③事業の概要	④事業KPI	⑤所管課	⑥事業実績の概要	⑦実績KPI	実績値を踏まえた今後について(所管課)		検証結果
							⑧所管課における検証結果	⑨今後の方針	
竹田市ヒューマン・プロジェクト「人づくり・人つながりの体制づくり」	H29.6 ～ H31.3	芸術文化ジャンルの移住者や、チャレンジ志向の高い地域おこし協力隊が多数いるにも関わらず、定住に向けたサポートに関するノウハウが不足している背景から、現在市が主体的に行っている「農村回帰支援センター」を、ETICの支援も受け、民間ノウハウの持った自立性の高い組織に再構築することで、今後、①地域おこし協力隊の就業・創業支援(域外の若い人材への積極的な起業支援など)②クリエイティブ人材の交流による竹田新ブランドの創出(市が設置したインキュベーション型工房を活用した、創業支援など)③移住者と地域住民との人つなぎの場の創出(19名いる集落支援員のネットワークを活用した移住者と地域住民の情報交換の場の提供など)④地域の受け皿となる人材育成(集落支援員への移住者受入にかかる意識醸成など)に取り組む。	①竹田市への移住者数20人 ②起業・創業人数1人 ③起業・創業者の労働生産性の増	企画情報課	①地域おこし協力隊の就業・創業支援(コーディネーター要請講座等企画費設計費等) ・【基礎編】研修 3回開催 ・【実施編】長期研修開催 ¥2,999,808円 ②地域文化資源の活用を活かしての地域再生に向けたの調査及びコーディネイト(現地クリエイティブ人材等調査等) ・現地調査 ・ものづくり講座 4回開催 ¥2,999,700円 ③移住定住対策縁結び事業(婚活ウェブサイト制作、婚活イベント企画運営等) ・動態意識調査の実施 ・ワークショップ 2回開催 ・支援体制整備 ¥2,997,327円 ④地域コミュニティ運営協議会導入の検討(検討会及び報告会の企画運営等) ・ヒアリング調査の実施 ・アンケート調査の実施 ・関係機関検討会3回開催 ・方針検討会1回開催 ・方針報告会1回開催 ¥2,804,794円 ⑤農村回帰支援センターの整備(研究会の企画・運営、報告書プラン作成等) ・あり方検討会2回開催 ・民間人材の活用・育成	①竹田市への移住者数 20世帯36人 ②起業・創業人数 6人 ③起業・創業者の労働生産性 ※未確定	初年度のKPIは、達成している。 様々なジャンルで活動する協力隊の就業や起業支援、移住者の定住に向けたサポートや地域との連携づくりなど、より専門性の高い人材育成やノウハウを取得し、組織的な体制を強化した。 また、移住定住促進施策として、移住者を受け入れる地域のあり方の検討、縁結び事業を実施し、今後事業推進するための体制が創れた。	①事業の継続 ②事業内容の見直し ③その他	移住・定住支援組織の体制強化及びそれに係る人材の育成はできたことから、この組織を軸に、今後移住定住のモデルとなるよう個性的な政策を連携連動させながら移住定住事業に取り組むでほしい。

平成30年度地方創生交付金関係(拠点整備交付金) 検証結果

H30.6.21開催

拠点整備交付金

①事業名	②事業期間	③事業の概要	④事業KPI	⑤所管課	⑥事業実績の概要	⑦実績KPI	実績値を踏まえた今後について(所管課)		検証結果
							⑧所管課における検証結果	⑨今後の方針	
「観光×温泉」による滞在型ヘルスツーリズムの拠点・温泉利用型健康増進施設(クアハウス)整備事業	H30.11～H3	<p>市民をはじめ市外の健康志向のお客さまや長期滞在可能な富裕層を積極的に取り込み、経済産業省が進める「ヘルスツーリズム認証」に基づいたヘルスケア産業のモデル事業拠点として、また、厚生労働省が進める「宿泊型新保健指導」などの健保組合や企業とのコラボレーションした各種健康づくりプログラムを提供する拠点として中長期滞在可能な施設、「温泉利用型健康増進施設」を整備。</p> <p>【施設概要】 ・受付/事務室/倉庫/給湯室(23.01㎡)・多目的ホール(79.61㎡)・医務室(7.13㎡)・家族風呂(12.08㎡)・トイレ(12.14㎡:1F 8.90㎡/2F 3.24㎡)・機械室(17.30㎡)・体操スペース(79.54㎡)・湯中運動浴槽(42.79㎡)・気泡浴(4.81㎡)・2F浴室(97.3㎡)・歩き湯(129.38㎡)・寝湯(31.67㎡)・サウナ(6.06㎡)・その他(116.19㎡)</p> <p>総事業費 487,329,480円 交付金対象事業費 180,175,000円</p>	<p>平成32年度までにクアハウス利用者収入 68,817千円</p> <p>竹田市の観光消費額 3,251,120千円増</p> <p>正規・臨時職員雇用者数 14人</p>	直入支所地域振興課	<p>出来高 43,266,960円 交付金充当額 21,620,500円</p> <p>※H30年度へ繰越</p>		<p>実績値を踏まえた今後について(所管課)</p> <p>⑧所管課における検証結果</p> <p>⑨今後の方針</p>	<p>平成30年度への事業繰越し、現在整備中。</p>	

①事業の継続